

①さいたま市図書館の一年

概要と展望（平成23年度から24年度）

武蔵浦和駅周辺は人口増加率が高く、若い子育て世代が多く住む地域であり、公共施設の整備、特に図書館の開館が強く望まれていました。

武蔵浦和駅前に建設中の複合公益施設（サウスピア）内に、平成24年6月の開館を目指し、武蔵浦和図書館の整備を進めてまいりましたが、平成24年1月17日、建設中のビル7階から出火し、5階から屋上まで被害が出ました。幸いなことに人的被害や、図書館部分への火災や消火のための放水による直接的な被害はありませんでしたが、ビル全体の被害状況の確認や補修工事のために、武蔵浦和図書館の開館は平成25年1月に延期となりました。

武蔵浦和図書館は、サウスピアの2、3階にあたり、駅西口からはペDESTリアンデッキを通じて直接来館いただけます。延床面積は約1,300㎡で、閲覧席82席、インターネット端末5台、自動貸出機7台などのほかに、幼児が靴を脱いで自由に本を読むことができるおはなしスペースや対面朗読室等を備えます。

また、サウスピア内には子育て支援センター、老人福祉センターが併設されますので、相互に連携をとりながら、サービスの充実を図ってまいります。

平成24年4月より、図書館の管理運営について見直しを行いました。休館日を月曜日と火曜日に分散することにより、年末年始等を除き、一年中、市内の図書館を利用できることになりました。あわせて夜間の時間帯に利用が少ない図書館について利用時間を見直しました。また、それぞれの地区図書館を所管する拠点図書館に児童・地域係を設け、サービスの質を維持しつつ、円滑な窓口運営を行ってまいります。

図書館評価については、前年度に引き続き、図書館の運営方針に沿って事業を計画・実施し、その評価結果を公表いたしました。さらに平成24年度は、評価結果を次年度の事業に反映させるマネジメントサイクルを確立し、図書館サービスの向上をはかってまいります。

図書館では、平成18年に「(仮称)さいたま市立中央図書館整備基本計画」を策定し、中央図書館の開館に当たってその役割を明確にし、サービスネットワークを構築してまいりました。図書館を取り巻く動向を踏まえ、平成24年度には、市民の多様化・高度化する要望に応えていくために、「地域の知の拠点」としての図書館を目指して「(仮称)さいたま市図書館ビジョン」を策定するとともに、その実施計画を検討してまいります。